

# 今だから真国労です!

**まこ**  
号外  
S61年5月25日  
真国鉄労働組合機関紙  
発行責任者 古川哲朗  
編集責任者 平山裕一

国労組合員・家族のみなさん。こんには真国労です。今、国鉄に働く仲間の誰もが自分の雇用について、将来について悩んでいます。とくに国労の組合員であるみなさんの場合は一段と深刻であると思います。なぜならば国労は、高い組合費を取るだけで、雇用対策をたてることも実行することも何ひとつできず、処分が上積みされるだけの「闘い」に組合員を引き回すという愚かな行為をくりかえして、いくら仕事をまじめにやっても国労に所属しているだけで旧国鉄・指名解雇の対象になってしまふのは必至だからです。

私達真国労は、みなさんが一日も早く国労から脱退し、真国労に加入し私達と共に未来を切り開いてほしいと願っています。みなさんの悩み・不安に率直にお答えいたします。職場の仲間たちや家族のみなさんと一緒に読み話しあってください。

## “俺だけはまさか” が落し穴

●みなさんの中には不安を抱きつつも「俺の職場は特退者もかなり出るから余剰人員は出ないだろう」とか「この仕事は俺がいなくて回らない」から自分は大丈夫だろうと勝手に思いこんで納得している人もいます。

それは全く甘い考えです。広域異動はついに現実のものとなりました。11月のダイヤ改正での合理化では新たに四万名もの余剰人員が発生します。乗務員が駅に配転になったり信号係を兼ねたり、駅員が売店に入ったりしているのです。今後は、このような地域を超え、職種・系統を超えた配転がますます拡大してくることはあきらめがたです。今の自分の職場や仕事の枠の中だけで将来を考えると大変な誤りを犯してしまいます。

●それだけではありません。国鉄本社は国会答弁や団体交渉で「日鉄法29条の発動は法的には可能」「発動の条件はある」と指名解雇を行うことを表明しています。

だが国労は、こうした配転や指名解雇から組合員を守る雇用安定協約・配転協定はすでに、失効してしまっていました。国労上部機関は再締結の方針も展望も全く立てられないのに一方では「反対」「撤回」「闘う」という気狂いじみた方針で組合員をひっぱりまわし選別・解雇へと追いやっています。当然のことながら5月16日の経営・雇用問題懇談会での当局との話し合いでは「労使協同宣言に調印しない限り、雇用安定協約は結べない」と通告されてしまふ完全に絶望となってしまったのです。



## 国労にいては、 何をやってもむだ

●「国労の方針に従ったら危ないのはわかっている。だけど、わざわざ真国労に入らなくても国労の中で方針に従わないで増収活動を一生懸命やれば生き残れるんじゃないか……」と考えているあなた! それも全く甘い考えです。

去年の今頃、あなたはワッペンをはずしてしましたか? ストライキに参加しませんでしたか? プラステンをやっていましたか?

もちろん今からでも努力はしなくてはいいませんが、あなたと同じことは今ではほとんどの国労組合員が考えているのです。1月の進路アンケートも4月のワッペン闘争もわずか2割程度の組合員が指令に従っただけなのです。プラステンや提案を行うことは変ったことではないので



## 苦しくても逃げずに!

●「真国労の人のいっていることはわかるよ。けどどうも何をやっても遅いよ。俺はどうなってもいいんだ。クビになったら実家で百姓をやるんだ」とつぶやいているあなた! 本当にあなたはそう思っているんですか? あなたの妻や子供、両親も「どうなってもいい」のですか? 本当に家族を食わせていくアテはあるのですか? 家族とすることについて話しあっていますか?

そうではないでしょう。あなたは自分の気持ちに真正面からむかいあ



す。だから、そんなことで自分は大丈夫だと思うのは3年遅れています。いや、ここまできてなお国労に所属し組合費を払っているのは、国労の方針を支持し幹部を助けていることとでなくてなんなのですか。自分を地獄に道連れにしようとしている組合になぜあなたは貴重なお金を差し出しているのですか?



ついでにはないですか。だれもが国鉄に残りたいのです。それ以外に家族を食わせていくアテなどないのです。生き残るために考え実行するのは苦しいことには違いありません。けれども、苦しいからといって目をそむけたり投げやりになるのではなく、一步を踏み出すことが今あなたに問われているのです。



## 家族のために家族と共に

「国労にいとあぶないのはわかっている。しかし、真国労に入ると先輩や友人の仲が、今までのしがらみがあつて……」

しがらみと家族とどちらが大事なのですか。あなたが選別・解雇されるというときは、家族全員が明日の生活の道を断たれるということではないですか。どんな苦しい時でも、家族こそが心の支えであり、家族がひとつになれば、どんな困難ものもこえられます。一人で悩まずに、こんな時こそ奥さん・子供さんに相談するときはないですか。

あなたの先輩や友人もまた、親や妻、子供がいるのであり、同じ局面に立たされているのです。本当は、

**日鉄法29条**  
職員は、次の各号の1に該当する場合を除き、その意に反して、降職され、又は免職されることのない。  
(4) 業務量の減少その他経営上やむを得ない事由が生じた場合。

**雇用の安定等に関する協約**  
近代化、機械化、合理化等(以下これを「近代化等」という。)の実施に伴い、相互の理解と協力のもとに、職員の雇用の安定等をはかるため、次のとおり協約を締結する。  
2 近代化等の実施に伴って、本人の意に反する免職及び降職は行わない。

**国鉄近代化等の実施に伴う配置転換に関する協定**  
国鉄近代化等の実施に伴って生ずる配置転換を円滑に行うため、次のとおり協定する。  
2 配置転換にあたっては、次によ取り扱う。  
(1) 本人の意向を十分尊重し、意思表示を強要しない。  
3 配置転換に伴い、結果として、本人の意に反する免職及び降職は行わない。

あなたと同じ気持ちなのです。だからこそ家族同様なんとしても救わなければならぬのです。しがらみに迷わされず、前向きに自信をもって先輩や友人と話し合い、一人でも多くの仲間と真国労に結集しようではありませんか!!

家族のみなさん!  
みなさんの良き夫・あるいはお父さんは、今、人生最大の岐路に立たされています。この時こそ、家族と一緒に悩み、相談し、はげましあつていかなければなりません。

組合員の雇用を守り、これからの鉄道事業の発展をめざし、組合員・家族の生活を守る真国労に今すぐ加入しよう!

**国鉄労働者共済生活共同組合(国労共済)の定款、規約**  
(区域)第4条 この組合の区域は、日本国有鉄道の職域とする。  
第2章 組合員  
(組合員の資格)第6条 この組合の区域に勤務する者は、この組合の組合員になることができる。

# 国労はまもなく旧国労――争議(葬儀)組合になる

## 雇用を守る方針がない国労

国労は今必死に真国労の悪口をわめきちらしています。「派遣を強制する」「50歳以上の肩たたきをする」「革マルの組織温存のため組合員を犠牲にする」等々……。こんな子供だましのウソに考えこんでいる人はいますか？

「団結」とは何でしょう？ どのようにして団結するのでしょうか？ どうやって「たたかう」のでしょうか？ さっぱりわかりません。なぜ堂々と「国労は雇用を守る絶対大丈夫」といわないのでしょうか？ そうです。あなたの思っている通り、国労幹部は展望を見失い自信をもって方針を出せなくなっているのです。



## 国労を支援してるのは、中核派と共産党だけ

あなた自身の職場を見て下さい。「団結」はとっくの昔にくずれてしまっているのではないですか。「たたかう」たくても闘う体制などどこにも無いではないですか。組合指令に従うのは2割足らずの役員・活動家だけ、広域異動に反対しているのに800名もの組合員が応募しているという現実のどこに「団結」があるというのでしょうか。

合活動家は「4万人の大争議団でたたかう」などと、旧国鉄に選別されることを承知したうえで「一人でも二人でも抵抗する！ たたかう！」と自爆の道を進んでいます。この集団自殺の道連れを増やすために共産党系労務役員・活動家がつくっている「地域共闘」を国労本部は中央委員会承認し、5月13日の東京集会では本部酒井副委員長が「分割・民営化阻止をめざしてたたかう」と連帯の決意を表明しているのです。

だが、問題はそこではありません。国労役員は国労組織の現状を十分知っているにもかかわらず、相変わらず「反対」「撤回」を叫びワッペン闘争や企業人教育で「日鉄法……」を記入させて、組合員を旧国鉄へ旧国鉄へと追いやっているのです。浅草橋駅に放火しケーブルを切断して国鉄をマヒさせたあの過激派中核派から「国労を先頭にゼネストでたたかおう」などと激励されるほどなのです。

また共産党系の国労役員や労働組合活動家は「4万人の大争議団でたたかう」などと、旧国鉄に選別されることを承知したうえで「一人でも二人でも抵抗する！ たたかう！」と自爆の道を進んでいます。この集団自殺の道連れを増やすために共産党系労務役員・活動家がつくっている「地域共闘」を国労本部は中央委員会承認し、5月13日の東京集会では本部酒井副委員長が「分割・民営化阻止をめざしてたたかう」と連帯の決意を表明しているのです。



## おどろくべき国労役員の本音

それだけではありません！ 国労役員自身が自分の将来に不安を抱いており、「たたかう」ということとは裏腹に自分達だけ助かろうとしているのです。

「革同と協会派は絶対に残さないと当局はいつている。(君達の)雇用は絶対に保障する。最悪の場合でも高崎給電区に行ける。29名の欠員をつくっている。名前はいえないがかなり上の人と話がついている。心配なら福留委員長(新橋支部)が一筆書いてもいい」

「国労で雇用が守れないなら鉄労だつていいじゃないか、派遣にいつたつていいじゃないか」

「協会と日共を強引におさえつけて共同宣言を結ぶ方向でちゃんとすくれ。山崎委員長も(この話)に傾いてきている。秋山謙祐(企画部長)はきまめたことをべらべらしゃべるからだめだ。」

国労本部塩野谷中央執行委員このように彼らは同じ国労の役員

### 〈組合費の比較〉

真国労の組合費は  
基本給 ×  $\frac{20}{1000}$  + 500円です。  
国労の場合は  
基本給 ×  $\frac{21}{1000}$  + 400 + 700 + 1,000

## 雇用安定協約締結、国労は絶望的

●国労は「(真国労の)雇用安定協約は62年3月31日までだ。4月1日以降はどの組合も同じだ」などと言っているそうです。そんな先のことよりも、余剰人員が大量に生み出される11月に雇用安定協約も配転協定もないことを心配するべきだと思いませんか。これからどうやって組合員を配転・選別・解雇から守るのでしょうか？

●真国労はすでに4月28日に雇用安定協約・配転協定を本社と締結しています。

●また、国会答弁や真国労との交渉でも本社ははっきりと「雇用協約を結んだ組合は(解雇の)対象外である」と述べているのです。

●国労はまた労使共同宣言に対してその一部分だけを取り上げて「派遣を強制」「首切りに協力」と騒いでいます。首切り・選別の危機にさらされているのは何度もいうように国

活動家を切り捨てて自分達は生き残ろうとしているのです。そして、真国労が雇用を確保する道を着実に進んでいるのに対して焦りとやっかみをむきだしにして「真国労は自分達だけ助かろうとしている」と思わず口走ってしまったのです。これでは真国労に入れば助かるといふことではないですか。本当は「国労にいれば雇用は守られるの」に出たバカな連中」と批判しなくては行けないのに、自分の雇用だけ頭のなか一杯だから思わず本音もさらしてしまつたのです。

## 決断するのはあなたです！

みなさん！ 自分達だけ助かろうとしていて国労の役員は、広域配転に応じて東京に一家をあげて移ってきた人達に対して、「墓石まで背おつてやってきた。職場あらし集団“利己主義者集団”などと許すことのできぬ悪口をなげつけているのです。

みなさん！ こんなきかない連中



●私達が労使共同宣言を結んだのは今日の国鉄の危機の中で労使対立を続けるならば鉄道事業の存続そのものが危うくなつてしまつてからです。国鉄貨物・小荷物は民間企業に敗北し数万人の仲間が職場を失い転勤を余儀なくされました。こんなことを再びくりかえしてはなりません。

●私達の働く場であり生活の基盤である鉄道を労使が協力して存続させ将来にわたる発展・拡大の道を開いていくことが、雇用と生活を守る唯一の道なのです。一人でも多く旧国鉄に道連れにしようとしている国労と、一人でも多く新会社へとみんなでがんばっている真国労と、みなさんが選択する道は二つの内の一つです。今だから真国労です。

—ご連絡は私達にどうぞ—

- 本部 057-3716 3717
- 委員長 古川 哲朗
- 札幌地方本部 委員長 宮川 俊一 (厚別自動車営業所)
- 釧路地方本部 委員長 鴨志田直次 (標茶電気区)
- 青函地方本部 委員長 中山 敏夫 (南館電気区)
- 名古屋地方本部 委員長 山本 三夫 (名古屋保線区)
- 東京地方本部 委員長 佐藤 司 (尾久客車区)